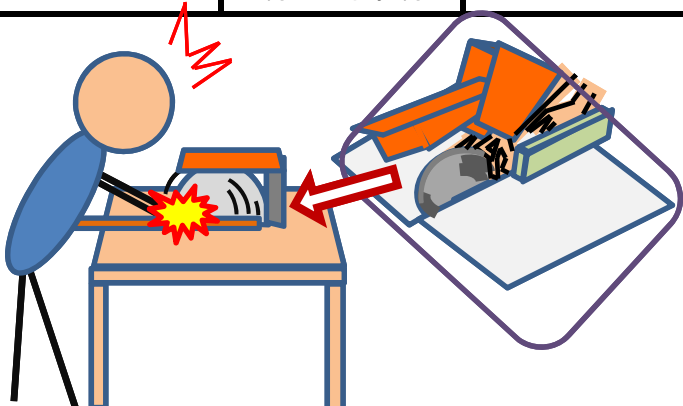


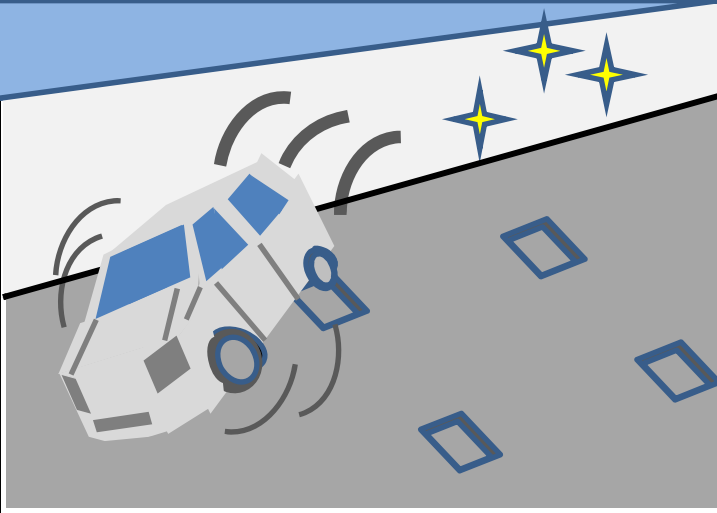
平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

1	事故の型	発生月・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	はさまれ・巻き込まれ	2月1日・11時頃	男性・47歳	左第2、3、4指切断	34日
災害発生状況	<p>除雪作業中に、除雪機のシューター(かき集めた雪を飛ばす筒状の部分)から雪が飛ばなくなったため、クラッチをニュートラルの状態にし、オーガ(雪をかき集めた羽)の回転を止めた上、シューターに詰まっている雪を左手でかきだそうとした。この際、同機のエンジンを停止していなかったため、シューター下部のプロア(かき集めた雪を跳ね飛ばす羽状の部分)の回転が止まっておらず、左手がプロアに巻き込まれ負傷したもの。</p>				
発生要因	<p>(機械)プロアの回転時、プロア内に手を入れることができる構造であったこと。 (管理)シューター等の回転部の雪詰まりを取除くときに雪かき棒を使用させなかったこと。 (教育)点検時の手順について、安全教育が不十分であったこと。</p>				
再発防止	<p>(機械)クラッチから手を離すとオーガ及びプロアの運転が停止するものを用いる。 (管理)シューター等の回転部の雪詰まりを取除くときは、雪かき棒を使用させる。 (教育)機械の点検の際は回転が止まっているか確認してから、点検を行うよう指導する。 (教育)機械の使用方法や点検・修理の安全な作業手順の教育を徹底する。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;">一般的な巻き込まれ災害の防止対策</div> <p>1 管理者の留意点</p> <p>◎安全カバーを確実に取り付けること！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 動力機械の動力伝導部分等巻き込まれの危険がある箇所には安全カバー(覆い、囲いなど危険部分への接触を防止するもの)を確実に取り付けること。 ○ 機械の点検作業中に他の作業員による誤操作を防ぐため、起動装置に錠をかけたリ、「スイッチを入れるな」などの表示板を取り付けること。 ○ 非常停止、急停止装置は誰が見てもよくわかるように表示し、危険箇所ごとに設置するとともに、作業員が自ら容易に操作できるものにする。 ○ 作業開始前に安全カバー、非常停止装置等の安全装置を点検すること。 ○ 作業内容に応じて必要な作業空間を十分に確保すること。 <p>◎安全教育を徹底すること！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機械等の清掃、点検、修理、調整等の作業を行わせる場合には、必ず機械の電源を切り、確実に運転を停止してから行うよう指導徹底すること。 ○ 頭髪や衣服が巻き込まれるおそれのあるときは、作業帽及び作業服を着用させること。 <p>2 作業員の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 管理者の指示及び安全作業手順を遵守すること。 ○ 機械を点検・修理するときは、機械の運転が停止していることを確認してから作業にあたること。 <div style="border: 1px solid purple; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《《災害報告やヒヤリ・ハット事例を収集し活用しよう。》》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 労働災害が発生した場合は、再発防止対策を樹立することが重要である。また、ヒヤリ・ハット事例は、職場の危険要因を見つけ、災害防止対策の検討に有効である。 ○ 危険予知活動により、災害が起きるまでに危険の芽を摘む。 </div>				

平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

2	事故の型	発生月・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
災害発生状況	切れこすれ	1月19日・10時頃	男性・41歳	右示指切断 右母指挫創 右中指挫創	15日
発生要因	<p>電動のこぎりを使用し、ベニヤ板を切断中、右手を巻き込んだもの。板が小さく、切断しづらくなったため、右手で横方向に押し付けながら、左手を添えて最後の切断に取り掛かった。板を押していた右手が安全カバーを押し上げ、歯に接触した。</p> 				
再発防止	<p>(管理)安全カバーが使用できない細かい加工作業をさせたこと。 (管理)危害防止主任者等責任者が安全な作業の指揮を行っていないかったこと。 (道具)作業の性質上、安全装置の使用が難しかったが、工具等を使用させなかったこと。 (教育)安全カバーや工具等の使用の安全教育が不十分であったこと。</p> <p>(管理)安全カバーが有効な状態で作業を行わせる(安全カバーが使用できない作業はさせない。) (管理)危害防止主任者等責任者が安全な作業の指揮を直接行う。 (道具)小物の加工作業等安全カバーの使用が困難な作業では工具等を使用させる。 (教育)安全カバーや工具等の使用等安全な作業手順の教育を行う。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<p>⚠ 機械の取扱いを間違えると大きな事故に繋がります！！</p> <p>機械を安全に取り扱うための留意点</p> <p>1 管理者の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全カバー等は必ず有効に機能する状態にして作業を行わせること。 ○ 危害防止主任者の選任が必要な業務には、必ず危害防止主任者を選任し、作業の指揮、安全装置の点検、作業中、工具等の使用状況の監視を行わせること。 ○ 危害防止主任者の選任を要しない場合でも、「安全確認者」等責任者を選任し、作業の指揮、安全装置の点検等に当たらせること。 ○ 機械の清掃、点検、修理等の非定常作業を行う場合には、機械の運転停止、起動装置の施錠、表示板の設置等に関する作業手順を定めるとともに、当該作業手順に従った作業を行うよう指導すること。 ○ 作業員に対し、適正な安全装置の使用、作業手順の遵守等について安全教育を計画的に実施すること。 <p>2 作業員の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全カバー等安全装置は必ず有効に機能する状態にして作業を行うこと。 ○ 機械の取扱いは危害防止主任者等責任者の指示に従い、安全な作業手順を遵守すること。 				

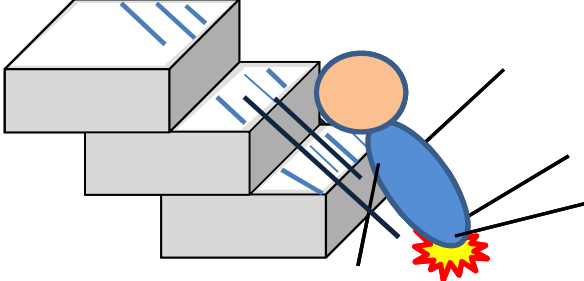
平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

3	事故の型	発生日・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	交通事故	2月3日・9時頃	女性・45歳	頸部捻挫	39日
災害発生状況	<p>(信越地方において)出張先へ向かう途中、路面凍結により車がスリップし、車が道路から土手に落下・横転した衝撃で負傷した。</p>				
発生要因	<p>(教育)凍結路面走行時の安全運転教育が不十分であった。 (行為)スリップした場合に十分対応できる速度で走行していなかった。</p>				
再発防止	<p>(管理)凍結箇所の多い路面の通行はできるだけ避けるルートを使用させる。 (教育)冬季は路面が凍結しているかもしれないと考えて、スピードを出しすぎないように指導する。 (教育)職場内でヒヤリ・ハットを報告し、話し合う。 (教育)日頃から計画的に交通安全に係る教育等を実施し、交通法規遵守意識の高揚を図る。</p>				
冬季の交通災害防止対策について	<p>⚠️ 路面の凍結によるスリップに注意！！</p> <p>1 管理者の留意点(設備管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に気象情報や道路情報などを確認し、冬用タイヤやチェーンを装着するなど、周囲の状況や路面の状態に合った対策をとること。 ○ 冬用タイヤについて摩耗状況の点検を実施すること。 <p>2 作業者(運転者)の留意点(安全教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 路面が凍結していると、停止距離が非常に長くなるので、前車との車間距離を十分にとり、早めのブレーキを心掛けること。 ○ 凍結している路面では、制限速度内で運転していてもスリップする恐れがあるので、路面の状況に応じてスピードを十分に落とし、安全な速度で運転すること。 ○ カーブなどは、少しのハンドル操作やブレーキ操作でスリップすることがあるので交差点へは減速して近づくこと。 ○ 直線道路でも急なハンドル操作や急ブレーキ、急発進、急加速などはスリップの原因となるので、「急」のつく運転は、絶対にしないこと。 ○ 日陰で乾きにくい場所や橋の上やトンネル出入り口、坂道では速度を落とすこと。 				

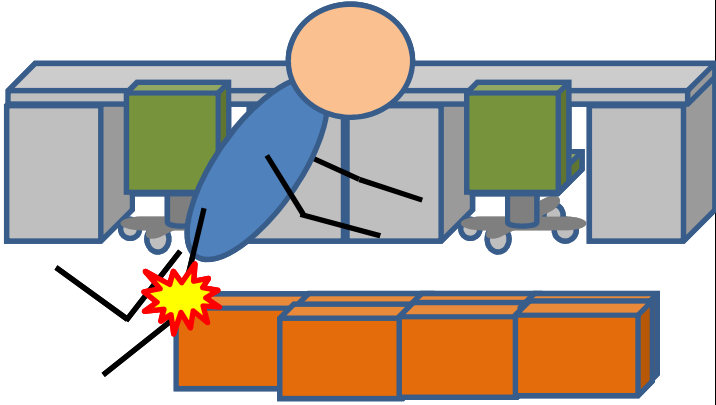





平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

4	事故の型	発生日・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	激突	7月15日・11時頃	男性・42歳	横突起骨折 右肘関節部打撲傷 右前腕切創	16日
災害発生状況	<p>研修会場を自転車で下見に出向いたが、道中、急勾配の下り坂にてカーブを曲がり切れず、ガードレールに自転車ごと激突し、ガードレール外側の林の中に投げ出された。</p>				
発生要因	<p>(教育)スピードの出しすぎへの注意喚起が不足していたこと。 (行為)本人がコントロールできるスピードを超えて走行していたこと。 (心理)カーブを曲がりきれると考えたこと。</p>				
再発防止策	<p>(教育)自分がコントロールできるスピードで走行するよう教育する。 (管理)十分なブレーキがかかるよう整備を徹底する。 (教育)自転車の安全運転について指導を徹底する。</p>				
類似災害防止のために留意すべき事項	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <h3 style="text-align: center;">自転車の使用について</h3> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="text-align: center;">日常の点検</h4> <ul style="list-style-type: none"> ○ブレーキは前後ともよくきくか。 ○ハンドルのゆるみはないか。 ○ライトは明るく点灯するか。 ○サドルは両足が地面につく高さか。 ○反射板はついているか。 ○タイヤの空気が十分入っているか。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 60%;"> <h4 style="text-align: center;">自転車を乗るときの注意</h4> <ul style="list-style-type: none"> ○スピードを出しすぎない。 ○四つ角や細い路地が広い道へ出る所では必ず止まり安全を確認する。 ○交通規則を守る。 ○脱げやすいサンダルなどで乗らない。 </div> <div style="text-align: center;">  <p style="color: orange; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">要確認!</p> </div> </div> </div>				

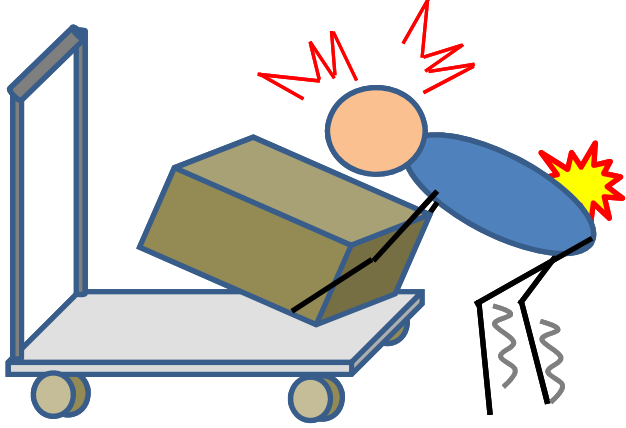
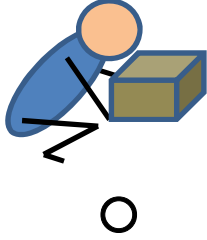
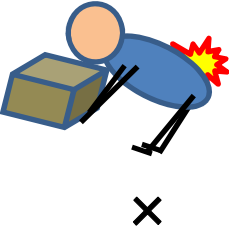


平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

5	事故の型	発生日・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	墜落・転落	1月20日・9時頃	男性・58歳	足関節脱臼骨折	47日
災害発生状況	<p>(東北地方の官署において)屋外にある階段を降りようとしたところ、階段の一部が積雪で凍結していたため、滑って負傷した。</p>				
発生要因	<p>(設備) 階段に手すりがなかったこと。 (道具) 滑りにくい靴を履いていなかった。 (管理) 階段を凍結したままにした。 (教育) 凍結路の歩行時の指導が不徹底であった。</p>				
再発防止	<p>(設備) 階段に手すりを設ける。 (道具) 滑りにくい靴を履く。 (管理) 路面が凍結しないよう小まめに除雪を行う。融雪剤を使用する。 (教育) 凍結路等滑りやすくなった通路の歩行時の教育を徹底する。</p>				
冬季などにおける転倒災害防止対策	<p>⚠ 凍結路の転倒に注意しましょう。</p> <p>◎管理者の留意点</p> <p>【設備管理面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通路や出入り口等で凍結しやすい場所は、凍結防止機能付のマットを敷く。 ○ 通路等の除雪を小まめに行う。 <p>【安全教育面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 凍結路では、滑りにくい履物を着用させる。 ○ 底のすり減った靴は使用させない。 ○ 通行時には、上着やズボンなどのポケットに手を入れさせない。 ○ 足を下ろすときは、つま先だけなど足の一部から下ろすのではなく、靴の裏でゆっくり慎重に垂直に上げ下げする。 ○ 小幅で歩く。 <p>⚠ 階段の転倒を侮ってはいけません!!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段からの転倒による被災の程度は意外に大きく、死亡につながることもある。 ・急な階段を降りるときは、大腿部が邪魔になって階段が見えなくなる。 <p>◎階段通行時の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 階段によっては、一段の高さや広さなどが違う場合もあるので、はじめての階段ではいつもの感覚で2段降りなどはしないこと。 ○ 階段を小走りに駆け上がったり、飛び跳ねて1段飛ばして上がったりしないこと。 ○ 荷物をもって階段を昇降する場合、荷物は出来るだけ小型・軽量にし、大型の荷物、重い荷物の場合は2人で運ぶことが必要。 ○ 急な階段では、手すりをつかんで昇降することを心掛ける。 				

平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

6	事故の型	発生日・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	転倒	4月7日・15時頃	女性・55歳	右足関節外顆骨折、捻挫	20日
災害発生状況	事務室内において、通路に積み上げていた荷物(パンフレットの束)につまずき転倒した。				
発生要因	(管理) 荷物を通路に置いていたこと。 (心理・管理) 心身機能の変化を考慮した対応・配慮が十分でなかった。 (行為) 通路に置いていた荷物をよく確認していなかった。				
再発防止	(管理) つまずきの原因となるような荷物は通路に置かないようにする。 (管理) 通路の整理整頓を徹底する。 (行為) 通行時は床の状態を確認して歩行する。				
類似災害防止のために留意すべき事項	<p style="text-align: center;">通路に置かれた荷物につまずきの原因となるほか、精神的なストレスの原因にもなり職場環境にも好ましくありません。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> 通行による足元の危険 </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>出っぱなしのキャビネット</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>一時置いた段ボール</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コードのたるみ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>カーペットのふくらみ</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff; margin-top: 10px; text-align: center;"> 50歳以上の職員は特に転倒への注意！！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 転倒災害は高年齢者の災害の特徴であり、骨折等の重大な災害に繋がりがやすくなっている。さらに同じ骨折でも若年者に比べ治りが遅いものとなっている。 ○ 転倒の要因としては、視力低下のほか、自分で思っているほどには足が上がっていない、重い物を無理に持って運んでバランスを崩すなどがある。 ○ 災害防止対策として、段差の解消、床面をすべりにくいものに改善、照明の設置や増設、通路の拡張がある。 				

平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

7	事故の型	発生日・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	動作の反動・無理な動作	9月29日・11時頃	男性・54歳	腰椎捻挫	2日
災害発生状況	25kgの箱を床の上に積むため台車から持ち上げたところ負傷した。				
	<table border="1"> <tr> <td>災害件数 (平成21年度)</td> <td>災害認定件数 (平成21年度)</td> </tr> <tr> <td>10人(一般職)</td> <td>7人(一般職)</td> </tr> </table>	災害件数 (平成21年度)			
災害件数 (平成21年度)	災害認定件数 (平成21年度)				
10人(一般職)	7人(一般職)				
発生要因	(管理)一人で重量物を持ち上げさせたこと。 (心理・管理)心身機能の変化を考慮した対応・配慮が十分でなかった。 (教育)腰痛災害を防止するための留意事項について安全教育が十分に行われていなかったこと。				
再発防止対策	(管理)重量物はできるだけ複数人で運ぶよう指導する。 (管理)重量物の取扱いは、なるべく女性や高齢者にはさせない。 (教育)頭や腰部の不意なひねりをできるだけ避け、動作時には視線も動作に合わせて移動させる。 (教育)作業前に体操をさせる。 (教育)急激な動作や不自然な姿勢での作業を避け、足や腰など負担のかからない動作の指導を徹底する。				
類似災害防止のために留意すべき事項	<p>①腰にかかる負担の少ない姿勢で運ぶ!</p>   <p>○ ×</p> <p>両足を開き、片足をやや前に出し、荷の重心に体を近づけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背筋を伸ばし、腰をおとす。 ・体の傾きはなるべく浅くする。 ・腕とひざを曲げて荷を抱え込むようにする。 				
	<p>②持ち上げる時は膝を伸ばして腰を上げる!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰を十分に降ろして荷物を抱え、膝を伸ばすことで立ち上がるようにする。 ・背はまっすぐにして腰をゆっくり伸ばす。 <p>③横に移すときは腰から上をひねらない!</p>   <p>○ ×</p> <p>対象に正対するように 下半身ごと回す。</p> <p>④下ろす時はひざを曲げて、腰をおろす!</p>				

平成21年度国家公務員災害事例(詳細)

8	事故の型	発生日・時	性別・年齢	障害の部位及び傷病名	休業日数
	墜落・転落	2月5日・14時頃	男性・36歳	右下腿両骨骨折	32日
災害発生状況	係留中の船内において、高さ約85cmの脚立の上で塗装作業中、同船船長の呼びかけに応じるため、脚立から下りようとし、右脚を脚立の第一ステップに掛けようとしたところ、誤って踏み外し、脚立から転落して右下腿部を骨折したものの。				
発生要因	(管理) 脚立を使用する作業を一人でさせたこと。 (教育) 脚立を使用する作業について、安全教育が徹底されていないかった。 (行為) 脚立の踏み台をよく確認していなかった。				
再発防止策	(教育) 日頃から危険訓練(KYT等)を実施するなど、危険感受性を高める取り組みを行う。 (教育) 脚立からの転落でも、打ちどころが悪いと重大な災害になることを周知徹底する。 (教育) 脚立の安全な使用について、教育を徹底する。 (行為) 脚立を降りる際は、一段一段確認しながら降りる。				
類似災害防止のため留意すべき事項	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>⚠️ 大した高さがなくても危険! 「1メートルは一命取る!」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 両手に物を持たない。 ○ 踏み面のないもの、開き止め金具の壊れたものは脚立として使用しない。 ○ 脚立の上ではつま先立ちをしない。 ○ 安定しない場所では使用しない。 ○ 脚立の一番上(天板)に立たない。 ○ 安定的な場所では使用しない。 ○ 身を乗り出して作業しない。一旦降りて、脚立を移動してから作業する。 ○ 身体を踏み面に正対して昇降し、身体をねじったり斜めに昇降したりしない。 <p>* より安全な「手すり付き脚立」「手すり付き作業台」等の使用が望ましい。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid blue; padding: 2px; text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">踏台について</div> <div style="flex: 2;"> <p>○ 身近にある回転椅子や折りたたみ椅子を使わず、しっかりした踏台を使う。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>				